2018年度 修了

男性の性的被害と回復の諸相
― 援助要請の観点から混合研究法を用いて検討する―

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
宮﨑　浩一

日本において男性の性的被害についてほとんど明らかになっていない。本研究は日本の男性の性被害者を対象に援助要請の観点から混合研究法収斂デザインを用いて探索的にその回復について検討した。インターネット調査を行い27名の当事者が心理尺度2点および属性に関する質問に回答しその結果を記述統計量として分析した。また，1名の当事者にインタビューを行い複線径路・等至性アプローチを用いて分析した。量的分析と質的分析の結果は統合され，“多様な属性”“意味づけのコスト”“声をあげなければ研究対象にできない”“情報の存在”“援助要請先がない・個人要員ではない”“低コストのサバイブ方略”“体験を統合して他者に伝える困難”“社会の認知”の8点の推論が生成された。以上の結果から、援助要請をしないことや，できないことは，回復のプロセスで機能していないのではなく，むしろ積極的な生存戦略であることが推測された。また被害からの回復の過程は，援助要請ができるようになるというような明確な目的点が達成されることではなく，「死なない」ことであると考察された。